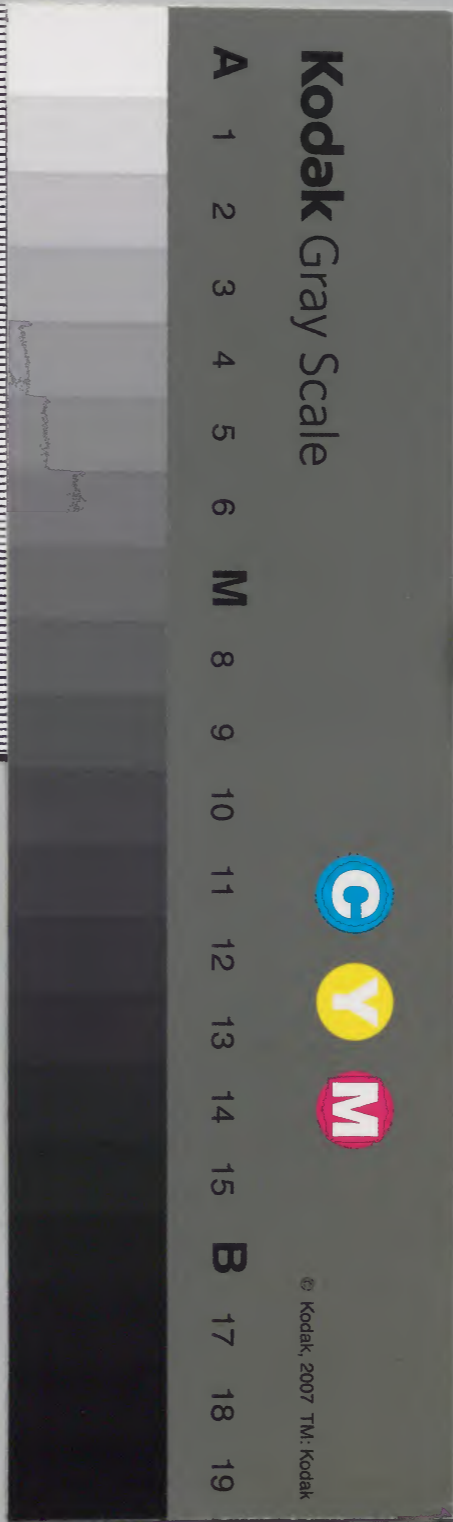


# 眞加訓

和書門			
二	七	二	八
九	一	八	類
五	九	一	冊
冊	架	函	號

內閣文庫			
九	三	二	和
〇	五	八	書
一	〇	五	冊
架	冊	號	類

內閣文庫	
番號	和 27218
冊數	5 ( 4 )
函號	190 182





眞加訓卷之四

一脾胃と云ふもの。臟腑乃中ね。抑もたもの也。脾

胃い土なり。本火土金水の五行も。本火金

水乃中ねハ土一なり。生養と云ふ

と云ふ。人も脾胃と。そこらハぶらぐ第一

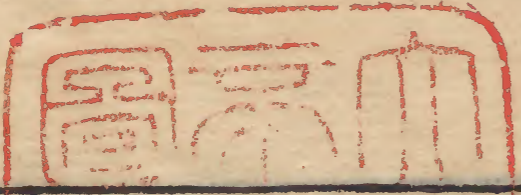
なり。脾胃と實して中ねハ外の四臟ハ

その中の也。儲胃と云。上口有て。下口は

ト口ハ篩乃きまの也。飲食もふすに

胃よのく。胃中めくもたつぎ。けいこせて

小腸よのく。小用と云。滓ハ大腸よのく。大



明治十二年贈本

墨書







わのちりものり。實<sup>じつ</sup>志<sup>し</sup>なりもの。脾胃<sup>い</sup>乃<sup>の</sup>下  
に。中<sup>ちゆう</sup>がれても。又<sup>また</sup>りる合<sup>あ</sup>ぐ中<sup>ちゆう</sup>と。老人<sup>らうじん</sup>や小兒<sup>せうじ</sup>。  
虚<sup>きよ</sup>志<sup>し</sup>なり人の。一旦<sup>いつたん</sup>中<sup>ちゆう</sup>がれて。又<sup>また</sup>りるあいなごと。  
かろがゆいよ。この損<sup>そん</sup>むのちりるに成<sup>な</sup>る程<sup>ほど</sup>と。  
るこの病<sup>びやう</sup>とまだ。是<sup>こゝ</sup>みな天<sup>てん</sup>性<sup>せい</sup>のよごらあ  
らど。今<sup>いま</sup>白<sup>はく</sup>けと。まが中<sup>ちゆう</sup>の事<sup>こと</sup>也<sup>なり</sup>。さて脾<sup>い</sup>  
胃<sup>い</sup>は。魚<sup>いさな</sup>鳥<sup>とり</sup>や酒<sup>さけ</sup>肉<sup>にく</sup>乃<sup>の</sup>類<sup>るい</sup>の。厚<sup>あつ</sup>味<sup>あじ</sup>をこのまん  
火<sup>か</sup>を多<sup>おほ</sup>とけ。痰<sup>たん</sup>と生<sup>な</sup>む。民<sup>たみ</sup>向<sup>むか</sup>乃<sup>の</sup>麤<sup>そ</sup>合<sup>あ</sup>を。食<sup>く</sup>  
とらもの。實<sup>じつ</sup>志<sup>し</sup>めして。吾<sup>われ</sup>病<sup>びやう</sup>長<sup>なが</sup>命<sup>いのち</sup>たらふん。  
んくちるべし。さて脾胃<sup>い</sup>の。動<sup>うご</sup>くとこのん。

兵<sup>へい</sup>はくとまぬ。土<sup>つち</sup>地<sup>ぢ</sup>とつもの。鋤<sup>あ</sup>鋤<sup>あ</sup>して。  
切<sup>き</sup>とまぬ。浮<sup>う</sup>てやううされん。草<sup>くさ</sup>木<sup>き</sup>も  
よくとらぬ。ぬくも。執<sup>と</sup>うさばさ。やせ  
てそごらうら也<sup>なり</sup>。人<sup>ひと</sup>と一所<sup>いしょ</sup>よつらう。兵<sup>へい</sup>と。こ  
い。あをう。あいな。あいな。あいな。あいな。  
は。長<sup>なが</sup>刀<sup>やいば</sup>。仕<sup>し</sup>舞<sup>まい</sup>鞠<sup>まり</sup>等<sup>ら</sup>を。身<sup>み</sup>をけし。じ。  
あいな。あいな。あいな。あいな。あいな。あいな。  
と。えい。脾胃<sup>い</sup>の。氣<sup>き</sup>よく。あいな。あいな。あいな。あいな。  
見<sup>み</sup>。皮<sup>かわ</sup>肉<sup>にく</sup>も。実<sup>じつ</sup>して。風<sup>かぜ</sup>寒<sup>さむ</sup>暑<sup>あつ</sup>濕<sup>しつ</sup>も。は。よ  
あいな。あいな。あいな。あいな。あいな。あいな。

類<sup>るい</sup>の。類<sup>るい</sup>の。

類<sup>るい</sup>の。類<sup>るい</sup>の。



痰飲<sup>たんいん</sup>疝氣<sup>せんき</sup>寸白<sup>すんぱく</sup>多<sup>おほ</sup>の疾<sup>やまひ</sup>もせざるなり。  
 元来<sup>もとより</sup>天<sup>てん</sup>よりうきなる何<sup>なに</sup>ハ五臟六腑<sup>ござうりくぷ</sup>のふ  
 して。疾<sup>やまひ</sup>病<sup>びやう</sup>といふ臟腑<sup>ざうぷ</sup>ハちたものよ。親<sup>おや</sup>乃  
 不<sup>な</sup>養<sup>やう</sup>は。その身<sup>み</sup>れそ。冥<sup>みやう</sup>加<sup>か</sup>よ。し。ゆ。  
 屋<sup>や</sup>まひと。なる也。さ。り。あ。ぐ。屋<sup>や</sup>の。邪<sup>じや</sup>。麻<sup>ま</sup>。攣<sup>れん</sup>。  
 能<sup>のう</sup>たる。一<sup>いつ</sup>。室<sup>しつ</sup>。身<sup>み</sup>を。は。し。し。よ。足<sup>あし</sup>と。う。こ  
 う。る。い。書<sup>しよ</sup>生<sup>せい</sup>の。さ。あ。よ。よ。け。色<sup>しき</sup>。ば。と。て。去<sup>き</sup>。氏<sup>し</sup>  
 を。迷<sup>ま</sup>惑<sup>わく</sup>で。り。て。い。う。の。身<sup>み</sup>乃<sup>なり</sup>冥<sup>みやう</sup>加<sup>か</sup>。は。き。り。ゆ。  
 天<sup>てん</sup>乃<sup>なり</sup>と。り。を。あ。り。て。養<sup>やう</sup>生<sup>せい</sup>の。術<sup>じゆつ</sup>ハ。跡<sup>あと</sup>。よ。如<sup>ごと</sup>て  
 益<sup>えき</sup>よ。さ。ら。ん。この。お。ろ。う。見<sup>み</sup>。か。別<sup>べつ</sup>。大<sup>だい</sup>。の。あ。也。

板<sup>いた</sup>脾胃<sup>い脾胃</sup>ハ。濕<sup>しつ</sup>と。き。ぬ。ち。り。濕<sup>しつ</sup>。た。れ。地<sup>ち</sup>と。あ。ん  
 ぶ。家<sup>か</sup>と。作<sup>つく</sup>り。屋<sup>や</sup>鋪<sup>ぽ</sup>の。た。沙<sup>しゃ</sup>を。二<sup>に</sup>三<sup>さん</sup>人  
 重<sup>おも</sup>さ。う。う。う。沙<sup>しゃ</sup>ハ。濕<sup>しつ</sup>と。よ。く。た。れ。もの。板<sup>いた</sup>を  
 の。下<sup>した</sup>。風<sup>かぜ</sup>を。吹<sup>ふ</sup>。と。ぬ。と。う。う。風<sup>かぜ</sup>よ。く。濕<sup>しつ</sup>と。り。い。う  
 と。也。板<sup>いた</sup>を。地<sup>ち</sup>氣<sup>き</sup>ハ。身<sup>み</sup>よ。う。う。う。う。う。同<sup>どう</sup>だ  
 くと。板<sup>いた</sup>と。う。う。う。う。竹<sup>たけ</sup>乃<sup>なり</sup>筭<sup>さん</sup>子<sup>し</sup>ぬ。い。  
 身<sup>み</sup>ハ。中<sup>ちゆう</sup>の。素<sup>そ</sup>を。よく。や。り。う。う。て。二<sup>に</sup>三<sup>さん</sup>に。か  
 さ。ぬ。づ。脾胃<sup>い脾胃</sup>ハ。濕<sup>しつ</sup>と。き。ぬ。ち。り。も。土<sup>つち</sup>氣<sup>き</sup>を。い。こ  
 の。ひ。ち。り。脾胃<sup>い脾胃</sup>乃<sup>なり</sup>虚<sup>きよ</sup>瓜<sup>か</sup>補<sup>ほ</sup>よ。べ。さ。を。え。り。  
 白<sup>しろ</sup>本<sup>ほん</sup>を。ま。う。さ。ま。ま。く。炒<sup>あぶ</sup>製<sup>せい</sup>は。あ。り。活<sup>かつ</sup>間<sup>かん</sup>



乃壁也。土をわらうるがよし。身に土氣を  
 つけざれば。脾胃の皮もすく。肌肉の皮も  
 落さたり。人れ足のうら。皮をわらてら  
 べ。ふむびらうてなく。土の氣はうらゆ  
 かり。是よりくものも。草履より。雪履は  
 あく。踏皮も本綿より。皮のわく。同どく  
 既してありさう。夫より皮と。さうけをま  
 くらふたり。土民の簀子もこれ。土民は  
 脚とれども。實病して皮肉あつく。美行も  
 くらふ。一生灸とせらるものあり。民間も

勝子のよたよたのい。あはれ病氣なり。領合  
 色も。自由を。衣類長短も。榮耀如少  
 かり。昔ある婦人。懐妊して子瓜生ん。其  
 子表はち。明醫これを察して。懐妊乃  
 間。二階に紀外。さうらものちん。土氣  
 を身にうけざるゆ。皮あつ。是とあり  
 てるるべし。人乃一身土氣も風守と。う  
 くらうら。けざれば本綿乃。月あきみの  
 を着して。風をとぬし。寒暑あも。折く  
 直くあつるべし。衣裳も小兒大人も。



暑くより。小兒の袖乃び紙。あけそをくもは  
 ちりちり。四時より。居間も障子や窓と  
 折くわけて。風氣紙とをまぶし。氣さるりて  
 替へるはわく。草本はくもるる。き異  
 よあより。日之風氣をうくれは。枝葉こそ  
 実より實して。まはくも。日射ふそ  
 ち。風氣をうけざる。木は。枝葉よりく。花も  
 実よりけ。色もけ。葉もそ。杉柏も。日  
 くら。日射して。性うり也。土地の濕り  
 よあより。飲食の濕。又ゆかし。うけも身を

けくも。骨紙おのの汗も。あよりくも  
 せく。くも。くも。くも。あより。高位高官  
 の人。このしひ。か。う。じ。さ。く。あ。ゆ。病氣短  
 命なり。田ま。野人。このしひ。よ。く。あ。ゆ。人  
 病長命なり。人より。く。貴賤のへ。を  
 わり。天より。く。頭目。鼻口。足。臟腑  
 よ。く。く。位乃上下に。く。毛頭。の。く  
 一親と。め。く。子。瓜。を。く。思。と。く。く。と  
 あり。先親や。足乃。所。わ。ら。く。大







産のいぢりたるやうなれども。凡情乃愚昧ゆへ。  
毒よサガれて。毒をくつせ。氣まきにはおごる。  
あまらうとゆへ成長とらふ。ささうて。公根  
つぐちり。又見り。あらしも用らうと。うらて  
販をさそ。異見をいふのをば。うらたのやに  
サシ。利欲の心は。ゆへに長じ。あまらうと。  
酒色よサガれ。格無よるづも。偽をいひ。人を  
そまらうと。文学武藝の心よ。そまら。鳥と取  
魚をつら。放埒たる跡。月日ぬくじ。大  
抵人乃つら。讀書兼用と。あまらうと。

ど。智恵才覚も。あまらうと。似合相無の。役役  
もけくまりかひて。天禄をむけく。はるを  
のらう。眞加ろけく。優也。人の幼少乃時の  
仕立が。大まらう。木の枝ろぐく。若芽乃  
ゆかひ。爪をけく。かかろ。事たる。大  
枝よ。ちりて。斧鉞を用い。ざら。うの枝を。  
伐取事あまらうと。又草木の生立時。割本  
をうら。をけく。直し。成長とらふ。生さるふ  
ちくをけく。ゆがも。直さる。ちく。種む  
まら。い。をうら。よ。ら。そ。あ。く。から。也。是。の。時。



穀之のあやまらかり。たうのん乃生得。下愚乃  
うらうらぶるもかべし。うも得る。冥加を。つぐ  
ひら。ひあくするは。たき事也

一君として。臣民をめぐり中らひさる事。領  
分乃内。みる羽がいたのよのされべ一人もも。  
羽がいの下とを移あし。飢寒死亡よ。乃べいめ  
とゆい。君の役目とのいざり同。天のよが先  
かて。冥加乃つさる事也。帝堯れ大舜  
く。天下とゆづりさる事也。四海固窮也  
ば。天禄ながく終るとのさる事也。天禄と

つは。糧米の事也。じうの聖賢。その卑なる。  
天禄と大車とさる事也。むならぬ。一日  
糧米をけさば。いのらけらぐら也。天もぬ  
かり。國ぬたもら。苦勞をさるも。畢竟飲  
食ともつ。口を中らひ。衣服ともつ。身  
をゆいさる事也。士農工商も同じ。  
王公大人乃。腹も。大さふらさし。上下も卑  
し。身の分限とさる事也。裸よして  
ん。五体も。毛頭うつら事也。少  
色乃白く。けらぬ事也。乃さる事也。上







瘧マラリアしつゝい。五俵ごばうのくづまじりやまゝ。侏儒ちよじゆとい。一寸いちすんは師しのり。は敷しきハ一入いちにゅう。心こころをなしてお煮おに。しめじしめじ。うぶが。君きみ乃の後ご目めより。かくのおびく。用もちよよ。ぬのぬのののを。うぐうぐと結むすぶ。一入いちにゅう乃の眞まこと加か。るるいい。わわのの也なり。一俵いちばう一婢いちひいを。先まづははよよのの也なり。君きみ乃の考かう也なり。下人げにんををああれれ。朝夕たふしの食物じきじふよよ。公こうををほほもも。扶持ふち方かた粮りやう米まい乃の。外また目めをを減げんむむ。ははききづづ。いい。大だい俵ばうをを合あつつ。とと定さだめめ。汁じゆハハ五斗ごとう味あじ。噌そうとと結むすぶぶ也なり。塩しほ汁じゆや。糠ぬか味あじ。噌そう汁じゆハハ。結むすぶぶ。人ひと。とと。五斗ごとう味あじ。噌そう乃のはは。米こめ糠ぬか五斗ごとう。大だい豆まめをを斗とう。米こめ

麹こう之之升しやう。塩しほ五升ごしやう。けけとと合あひひもも。二十日にじゅうにち過すてて用もち也なり。夏なつ冬ふゆともとも小こ湯ゆ行かう水すいととつつ。とと也なり。炎天えんてんの内うち分ぶんはは。日ひ中ちゆうとと用もち捨す。寒夜かんやハハ九く乃の以後いご用もち。捨すととぶぶ。とと。摺すりたたれたれた用もち事ことカカをを免まぬ。けけつつ。湯ゆ漬づけ。とと酒さけとと結むすぶぶ。夜よるのの者もの乃の。夏なつ冬ふゆともとも小こ。穿くちち。仕し着きのの者もの乃の。絹きぬ油あぶら布ぬの本ほん綿わた等らのの地ぢ。及およびび。いいろろ先まづををよよ。とと。糸いと束たばよよ。とと。心こころ後ごままてて用もちぬぬ。ららのの皮かわ。ほほつつ。とと。技わざおお切き。米こめ等らとと。何なにもも。病びやう氣き乃の何なに分ぶんはは。藥くすり















